

5. 整備形態の整理

整備形態は、その路線（区間）の自動車交通量と規制速度とから、ガイドラインに従い、現況の幅員構成をもとに設定する。

ガイドラインでは、下図の通り、「自動車の速度が高い道路（A）」、「自動車の速度が低く、自動車交通量が少ない道路（C）」、「A、C以外の道路（B）」に区分される。沼津市の自転車ネットワーク計画路線（市街地エリア）では、国道1号及び国道414号の一部がAに、国道414号、県道及び一部の市道がBに、それ以外の主に市道がCに該当する。

完成形態としては、Aに該当する路線は一方通行の自転車道、Bに該当する路線は自転車専用通行帯、Cに該当する路線は車道混在の整備となる。ただし、車道部内での空間再配分を考慮できない区間・期間においては、AあるいはBの路線であっても暫定形態として車道混在の整備を進めることとなる。

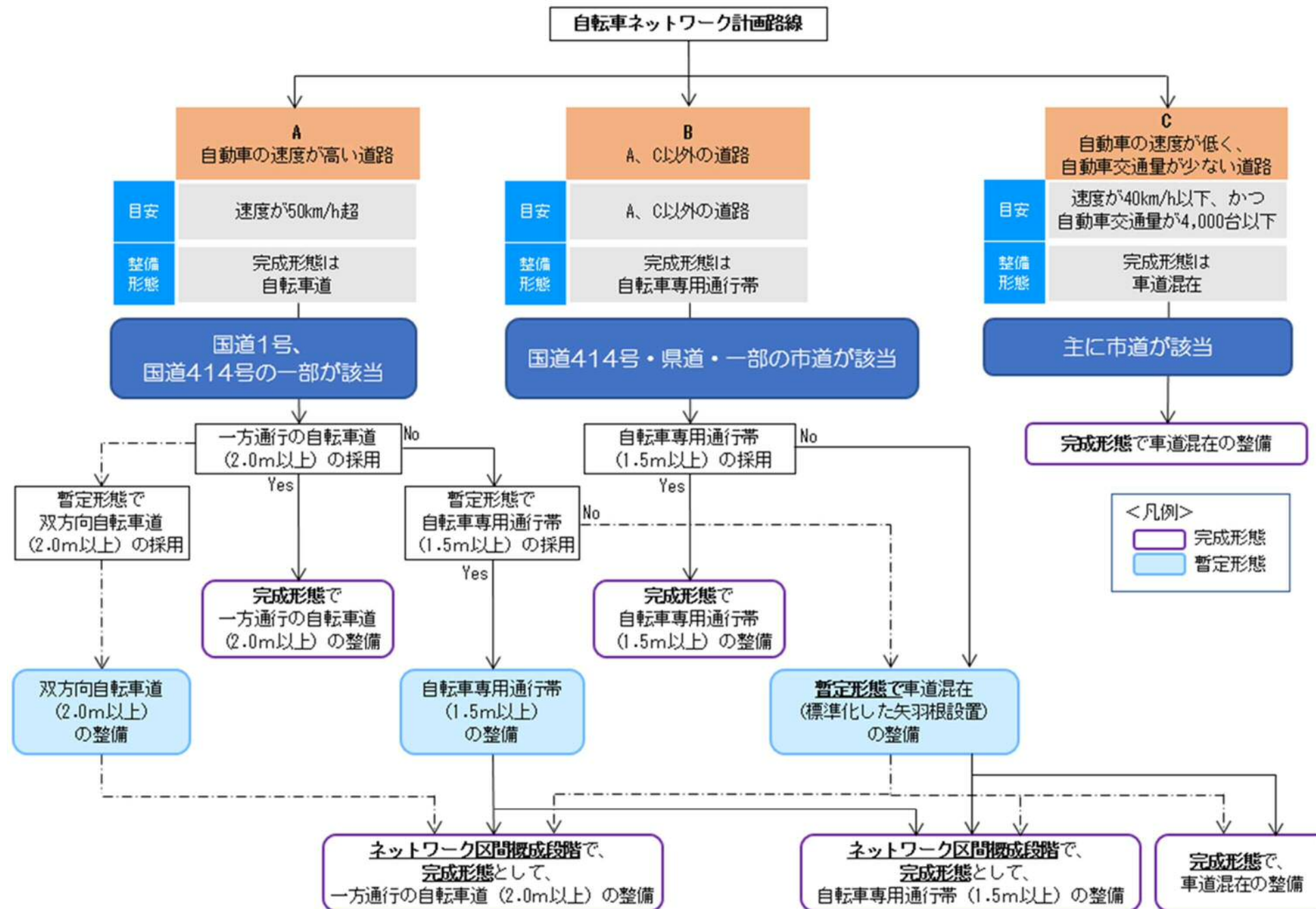


図 5-1 ガイドラインに基づく整備形態の検討手順

自転車道、自転車専用通行帯及び車道混在の整備形態の概要は以下の通りである。

表 5-1 整備形態の概要（自転車道）

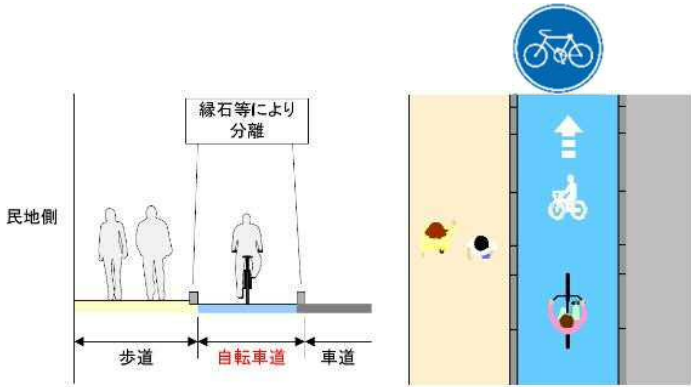
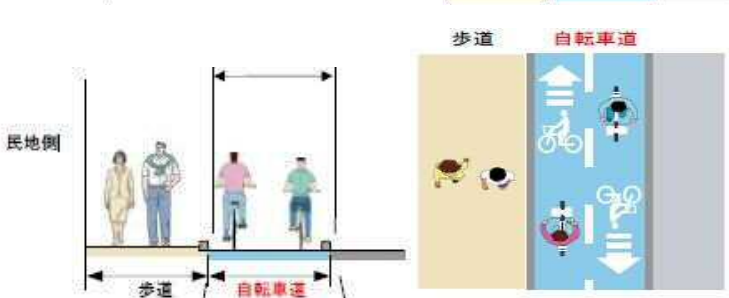

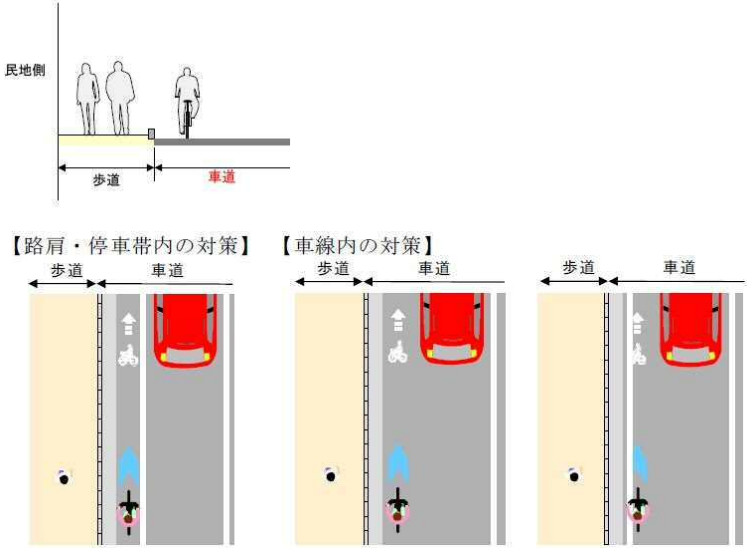
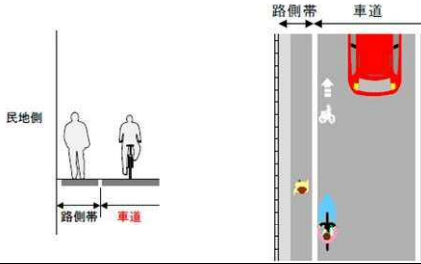

整備形態	自転車道
概要	自動車と構造的分離 自転車の通行の用に供するために、縁石線または柵その他これに類する工作物により区画して設けられる道路の部分
通行方法	一方通行あるいは双方向通行
幅員	2.0m以上 ※一方通行で、やむを得ない場合は 1.5m以上
整備イメージ	<p>【一方通行】</p>  <p>【双方向通行】</p>  <p>※双方向通行は諸条件を満たす場合限定での暫定的運用</p>
	
法的位置づけ	道路構造令：自転車道（第2条第1項2号） 道路交通法：自転車道（第2条第1項第3号の3）

表 5-2 整備形態の概要（自転車専用通行帯）

整備形態	自転車専用通行帯
概要	車道上の整備。自動車と視覚的分離 普通自転車の通行を指定された車両通行帯
通行方法	一方通行（自動車と同方向）
幅員	1.5m以上
整備 イメージ	
法的 位置づけ	道路構造令：車道（第2条第1項4号） 道路交通法：自転車専用通行帯（第20条第2項）

表 5-3 整備形態の概要（車道混在）

整備形態	車道混在
概要	車道上の整備。自動車と混在
通行方法	車道部の左端部において、交通規制を行わないで自動車と混在する走行空間
幅員	—
整備 イメージ	<p>【歩道のある道路】</p>  <p>【歩道のない道路】（路側帯のある道路）</p> 
	
法的 位置づけ	道路構造令：車道（第2条第1項4号） 道路交通法：車道（第2条第1項3号）